



新聞は街だ

なるへそ新聞出足好調

思い出はニッポ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を發表した。西成区で芸術活動を展開するアレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に振られ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行く。



「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れ事のない出来事、大きな戦争体験、さらには個人のディテールを失って単なる「歴史のページ」となっていく現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたい。同社広報の村田仁氏は

発行: 西成なるへそ新聞社
ブレカープロジェクト実行委員会
発行人: 山田 巨
編集: ブレカープロジェクト実行委員会
山田 巨・村田 仁
図案: 村田 仁

ドラフト注目3記者



二十日、五号が発行された西成なるへそ新聞社では、次号に向けての取材を開始した。同社は今月新たに三名の記者を採用し、日々変わりゆく個々の思い出話の取材に向けての体制作りを急がなければならぬ。人事担当の村尾真由子さんは、「ライターや地

洋品店入居

二十一日、太子一丁目の動物園前一番街商店街の「丸亀」より出火し、大正時代に建てられた店舗が焼けた。出火原因は漏電とみられている。「丸亀」では蕎麦や大工職人、建設労働者向けの作業着を製造販売していたが、この火事により、商品の作業着を縫製するための型紙が焼失した。店の村井

康夫さん(44)は「最近建設現場の安全性が向上し、色のバリエーションが豊富な中国の安い既製品でお洒落や個性を競う時代になった。昔ながらの職人気質のお客さんが減っている」と語り、これを機に店舗をカジュアルなものに扱う洋品店へ生まれ変わらせようことを検討しているという。

アパカル
丸亀
太子一丁二

広生堂
たんす

Kioku 手芸館
たんす
お家のタンスに眠っている
編み物を譲って下さい。
山王1-11-5 (元・鈴木タンス店)

いきなり小福屋
おしゃな作務衣
別荘入ります。
山王2丁目14-9

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
<http://breakerproject.net>